

新型コロナウイルス感染症患者に係る5類感染症への変更による影響額 (2022年8月：入院分)

本調査は、新型コロナウイルス感染症患者が多かった2022年8月における新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬請求(入院分)を対象としており、作成にあたっては会員のうち以下15大学病院にご協力いただきました。

国立：北海道大学病院、東北大学病院、千葉大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、
東京医科歯科大学病院、京都大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、九州大学病院
公立：横浜市立大学附属病院、奈良県立医科大学附属病院
私立：東京慈恵会医科大学附属病院、帝京大学医学部附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、藤田医科大学病院、
関西医科大学附属病院総合医療センター

(単位：円)

分類	診療報酬請求額	5類変更による影響額
①重症病床関連	543,864,072	362,576,048
②中等症病床関連	115,656,710	77,104,473
③総合周産期関連	23,158,810	15,439,207
④看護配置関連	26,029,000	26,029,000
⑤救急医療管理加算	199,587,900	129,254,050
⑥一般病床関連(軽症)	40,374,300	40,374,300
⑦外来関連	17,295,750	17,295,750
総計	965,966,542	668,072,828
	5類変更による1月あたりの 影響額総計	668,072,828
	1大学病院1月あたりの 影響額	44,538,189

<分類の詳細>

- ①②③・・・特定入院料のうち、新型コロナウイルス感染症で診療報酬上の特例により倍数がかかった算定
- ④・・・①②③で看護師配置で評価されている算定(インフルエンザと同様の扱いとなったら算定不可)
- ⑤・・・新型コロナウイルス感染症で入院した際の算定
- ⑥・・・2類感染症から5類感染症へ変更となった時に一般病床で入院した算定(軽症)
- ⑦・・・外来において新型コロナ感染症を診療した際の算定